

大会宣言

日本中国友好協会大阪府連合会は、6月23日、第65回大会を国労大阪会館において開催しました。今大会には、49名の会員がつどい、昨年の大会以降、中国への関心に応え、府民の中に日中友好をひろげるための不再戦平和や、友好交流活動、支部での多彩な活動が報告されました。この1年間で新たに日中友好運動に加わった人たちは47名、2015年7月以降、48か月連続で新しい会員を迎えました。

今大会は、米中経済戦争が国際規模の景気後退も危惧され、また国内では安倍政権が米国産軍複合体の期待を担い、憲法改悪で戦争できる国づくり推進に対して、それを許さない野党と市民の共闘がすすむなか、参院選公示直前での開催となりました。

「日中不再戦」を掲げて結成され、活動してきた協会の役割が沖縄での辺野古新基地建設反対の運動、唯一の被爆国の日本政府に「核兵器禁止条約」を批准させる運動にもいちだんつつよく求められ積極的にかかわっていきます。

大会では報告にもとづき、憲法9条改悪を許さない闘いととも、不再戦・平和活動や友好交流・文化活動、帰国者との交流、長谷川テル顕彰活動が報告されました。支部活動では、西、東大阪、堺支部での「支部活動の5原則」に基づく豊かな日常活動や、新たに結成された城北支部の地域に根ざした取り組みが語られました。

再開3年目を迎える女性部は、事務局会議と運営委員会を定例化し、活動方針をたて、女性会員ならではの視点での平和・交流活動や、ミニ学習会、楽しい行事などの活動が報告されました。太極拳普及活動では、技術向上の取り組みと、太極拳の基本原則と体づくり講座で、活性化が図られている報告がありました。学習活動では、西支部の近現代史学習会、堺支部の市民公開講座、城北支部の定例開催など、一面的な中国報道が氾濫する中で、草の根レベルでの交流が、信頼醸成と日中両国関係改善の力であることに確信を深めました。

当面の活動として、8月25日の「日本は中国で何をしたか」講演会、12月の「南京の記憶をつなぐ」つどいを成功させましょう。また、12月8日の第7回「中国百科検定」、2020年3月20日の第8回「中国百科検定」の成功のため、受験のための講座や、関心の深い分野の学習会に取り組みましょう。

今年は中華人民共和国建国70周年の年。府民の中国への関心に応える多彩な活動、支部づくりを進め、さらに大阪では、安倍政権の「改憲」の協力者、暮らし破壊のおおさか維新政治との闘いを強める決意をあらたにし、強大な大阪府連めざし奮闘することを宣言します。

2019年6月23日

日本中国友好協会大阪府連合会第65回大会